

売電型vs自家消費型太陽光の 投資回収年数比較



自家消費型太陽光発電

企業様の工場・倉庫・店舗の屋根や敷地内に太陽光発電設備を設置して、発電した電気を自社の使用する電気に充てるもの

自家消費型の注目の背景

固定価格買取制度の開始で、「投資目的」として爆発的に広がり、その影響で電力の発電バランスと需要の調整を行う必要が随時発生しており、最近では大手電力会社により「出力制御」を行うようになった。

投資色が強い全量売電型だが、売電価格の下落により投資回収年数もやや長期化していることもあり、メリットを大きく享受できなくなっている時代になってきた。

法人の電気料金単価が上昇傾向にあり、**2019年**の平均は約**15円～17円**と今年度のFIT価格の**14円**を上回っており、自家消費型太陽光発電の方が、投資回収のメリットが大きくなっている。さらに、自家消費型には優遇税制を活用することができ、実質的な投資回収年数をさらに抑えていくことが可能となる。

前提条件

年間予想発電量 : 110,000kWh
太陽光設備費用 : 1,500万円
FIT価格 : 14円
電力使用単価 : 16円

売電型 (FIT)

売電収入 : $110,000\text{kWh} \times 14\text{円} = 154\text{万円}$
投資回収年数 : $1,500\text{万円} \div 154\text{万円} = 9.7\text{年}$

自家消費型

電気代削減額 : $110,000\text{kWh} \times 16\text{円} = 176\text{万円}$
投資回収年数 : $1,500\text{万円} \div 176\text{万円} = 8.5\text{年}$

※自家消費型太陽光発電には、補助金制度があり、設備代金 + 工事代金の1/3～2/3の補助を受ける事が出来るので、投資回収年数を下げる事が可能。